

京のみどりウォーキングマップ



＊小塩山のカタクリの自生地を守ろう ～西山自然保護ネットワーク＊

●カタクリ…ユリ科の植物で、以前は根茎の澱粉(でんぷん)からカタクリ粉をとった。信州や東北に多く、近畿以西では希少種。4月に花を着け、4月末には種子ができ5月に蟻が種子を運ぶ。花が咲くまで9年を要する。傷く咲いて早春を告げる植物の一つ。



●ギフチョウ…「春の女神」と呼ばれる美しい蝶。里山の奥山に棲息しカタクリ、スマレなどの蜜を吸う。日本特産種で、秋田県から山口県にかけて本州のみに分布する。環境省は絶滅危惧Ⅱ類に指定している。京都府が1984年に天然記念物に指定し、府下での採集は禁止。

小塩山にある、カタクリの自生地は、花にギフチョウが訪れ、春になると毎年多くの方が訪れます。その環境を守っているのが、西山自然保護ネットワークです。1999年の発足以来、小塩山の動植物、特にカタクリ、ギフチョウの棲息環境を守る活動を続けてきました。入山者対策として、数十軒の地主に了解を得て、自生地の踏み荒らしを防ぐためにコースロープを設置。山を訪れる人と「対話」することに力を入れ、保護活動をPRしてきました。またカタクリなどの草本には春の明るい日差しが必要なことから常緑樹を伐採し、落葉樹のコナラやクヌギのどんぐりや苗木を植える活動も行ってきました。地道な活動とカタクリの花の魅力から、会員は順調に増え、現在は768名に。多くの人に活動を知ってもらうことで、盗掘や乱獲からもカタク

クリを守れているそうです。

しかし、近年、個体数の増加したシカの食害により、カタクリが他の野草とともに著しく減少する問題が発生。危険した会は2008年、自生地のある6つの谷の一つに、350mの防獣ネットを張りました。すると翌年、多数のカタクリが咲き、その効果はてき面。第2のネットにむけて来山者に、「年会費500円で50cm分のネットが買えます」と協力を呼びかけたところ、多数の入会とカンパが集まり、第2、第3のネットの費用にあてることができました。「最近ではカタクリのほかギフチョウの幼虫が食べるミヤコアオイやその他の植物などの、ネット内の植生調査にも力を入れています。5年間調査を続け、その結果に基づいて今後の方向性を決めていこうと思っています」と事務局の本間さんは言います。

今年は、4月2日に出発式を行い、4月中、会のメンバーが10人前後で花や蝶や里山の説明を行い参加を呼びかけるボランティアを行います。見ごろは4月の中旬。可憐な花と蝶が訪れる人々を迎えてくれます。

●西山自然保護ネットワーク

メール：nishiyananet@gmail.com

ホームページ：http://www.eonet.ne.jp/~sizen/katakuri/

ネット張りは、他の谷にも計画中で入会とカンパを募集しています。